



## カゼノコ号「第16回 ジャパンダートダービー」優勝

降りしきる雨も味方につけて！

### カゼノコ号 ジャパンダートダービー優勝

7月9日、大井競馬場で開催された「第16回 ジャパンダートダービー」(JpnI・ダート2000m)を田中裕之氏生産のカゼノコ号(牡3歳 父アグネスデジタル 母タフネススター)が、見事な追い込みを決め、優勝を飾りました。

このジャパンダートダービーは、全国のダービー馬とJRA所属馬が激突するレースで、今年、ダートでは無敗を誇り、13年振りの三冠制覇に期待のかかる東京ダービー優勝馬ハッピープリントをはじめ、九州ダービー栄城賞優勝馬オールラウンド、兵庫ダービー優勝馬トリーガイア、東海ダービー優勝馬ケーシーキンカメと4頭のダービー馬が顔を揃え、対するJRA勢は、前走の鳳雛ステークスを勝ち、ダートでは5戦3勝2着1回3着1回とまだ底を見せていないカゼノコを筆頭にメイショウパワーズやノースシヨアビーチといったオープンレースの勝ち馬が顔を揃えました。

スタートでやや後手を踏み、両側の馬に前をカットされる不利もあり、1コーナーを迎えるときには、馬群から6馬身から7馬身離れた最後方の位置取りとなっていました。

道中、ハッピープリントは、ノースシヨアビーチに続く3番手を追走、カゼノコは、徐々に位置取りを上げ、3コーナーでは馬群中段7番手、4コーナーでは、大外を一気に4番手まで追い上げ、最後の直線を迎えました。2番手から抜け出しを図るハッピープリントに大外から一完歩一完歩差を詰めるカゼノコ。残り100mで2頭の差は2馬身あったものの、そこからカゼノコの勢いはそれまで以上に鋭く、少しかだけカゼノコの鼻面が前に出た瞬間がゴールでした。

当日は、九州地方に接近していた台風8号の影響を受け、レースが近づくにつれ雨足が強くなるなか発走時刻となりました。

レースは、1番人気ハッピープリントが、先頭から3番手の絶好のポジションを確保したのに対し、秋山真一郎騎手騎乗のカゼノコは、

現地で観戦していた生産者の田中氏は「ゴール板を過ぎると同時にハッピープリント陣営が沸いていましたし、私が見ていたところからは、カゼノコが届いていないように見えていたんです。だから「惜しかったけど、よく頑張ったな」と思っていたのですが、結果が出てびっくり。本当に嬉しい勝利となりました。」

今回のレースでも素晴らしい脚を見せてくれたカゼノコ。秋以降も更なる大きな舞台での活躍が期待されています。